

平成30年 9月13日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題 商人榊生産組合 30周年記念大会を盛大に開催！！～山地が産地に～

(ダイジェスト)

^{あきんど}商人榊生産組合が今年度で設立 30 年を迎えました。これを祝し、8月25日(土)に津和野町プラサ枕瀬で記念式典が盛大に開催され、これまでの活動を振り返りながら、市場において無くてはならない存在となった組合の功績を称えるとともに、ますますの産地発展に向けた具体的な宣言がなされました。

^{あきんど}商人榊生産組合は、^{あきんど}商人集落の 97 %が山林という地理的状况の中、高齢者でも軽労働で続けられる作物として、平成元年に^{あきんど}商人集落 21 戸のうち 20 戸で結成され、現在では組合員 30 名、栽培面積 10ha で、年間 54000 束出荷し、販売金額は 1500 万円となっています。

当日は、組合員やその家族、下森町長をはじめ市場関係者、関係機関ら約 60 名が出席し、組合で作成した記念 VTR の上映や生産者、市場担当者による榊への思いを語るリレートークがあり、これまでの組合の歩みを振り返り、来る 10 年の意気込みについて語りました。

田中幸一組合長はあいさつの中で、直近 10 年の取組において ①組合員の加入エリアの拡大(集落から JA 西いわみ全域) ②マニュアル作成による新規生産者の技術向上 ③町単生産振興助成金事業の活用による榊園の整備 ④新アイテム「イベント榊」の取り扱いによる新規販路開拓 を挙げ、生産者を中心に関係機関と一体となった取組の結果を振り返りました。また、組合として、まだまだ伸びしろがあり、中山間地域の生産振興と定住対策の一翼を担う品目として、今後さらに^{あきんど}商人榊ブランドを確立していくことを述べました。

最後に若手生産者が、①事業継承による新規生産者のほ場面積拡大 ②スーパー作業道による施肥・防除の徹底 ③ドローンの活用による作業の軽減化 ④市場ニーズに対応した日本一の榊生産組合の実現 を力強く宣言し、組合員の活気みなぎる大会となりました。

当普及部としては、今後も新規生産者への栽培技術向上や関係機関と連携し産地振興の支援を行っていきます。



組合長あいさつの様子



大会宣言の様子



出荷規格の榊展示